経済新聞　2020年（令和2年）10月29日（木曜日）

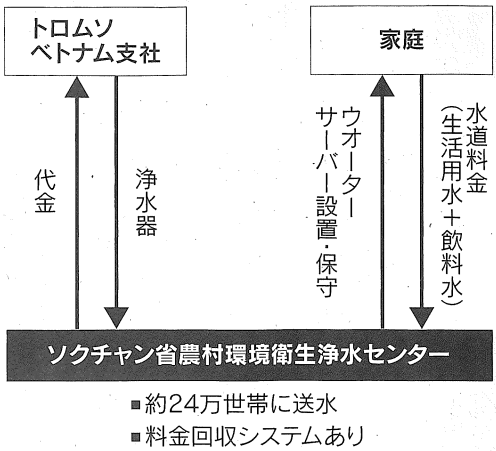
# ベトナムで家庭用浄水器

## トロムソ、初期費用不要

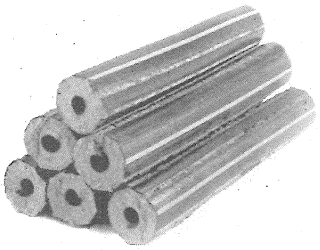
### もみ殻活性炭を活用

もみ殻を原料とする固形燃料の製造装置を手がけるトロムソ（広島県尾道市）はベトナムで浄水器の販売を始める。固形燃料の炭からできる「もみ殻活性炭」をフィルターとし、2021年から家庭向けに年間5000台の設置を目指す。生産や保守などの料金は水の使用量とあわせて回収する。家庭にとって初期費用がかからない仕組みにして普及につなげる。

ベトナムでのビジネスモデル



フィルターにもみ殻活性炭を活用した浄水器



もみ殻を原料とする固形燃料も販売している

07年創業のトロムソの年間売上高は約1億円で、主力商品はもみ殻固形燃料の製造装置「グラインドミル」。もみ殻をすりつぶして高温で圧着した固形燃料「モミガライト」は、燃やしても硫黄酸化物（$SO_x$）が出ない。捨てられるだけのもみ殻を有効活用したいアフリカ諸国などからの関心は高く、これまでに約150台を販売した。

モミガライトを応用した浄水器も生産・販売している。もみ殻活性炭をフィルターにした浄水器は微小物質の吸着率が高く、飲料用水道が十分に整備されていない新興国で販売を伸ばしている。国連工業開発機関（UNIDO）が運営する「STePP」（サステナブル技術普及プラットフォーム）にも登録された。

ベトナム・ソクチャン省で浄水器を設置する。広島県と同省は環境技術の移転で連携協定を結んでいる。トロムソは同県の後押しを受けられると判断して進出を決めた。21年1月ごろにベトナム支社を開設し、水道供給を担う公営企業の農村環境衛生浄水センターと契約を結ぶ。

水道管から水をくみあげる部分に、浄水器内蔵のウオーターサーバーをそれぞれの家庭に設置する。水道水は飲料用に適しておらず、大型のボトルを買って飲んでいる家庭が多い。同社がモデルとして試算する6～10人の世帯は、1カ月あたり約350リットルを購入する。日本円で毎月1500～1600円をかけているという。

浄水器本体の価格は4万円弱と、同省の所得水準からすると高い。普及に向けて生産や設置、保守にかかるコストを、水の使用量に応じた月額料金に反映するビジネスモデルを採用する。初期投資は1件あたり2年かけて回収する。設置や保守などの業務は同センターに委託する。

設置した家庭からすると毎月の水道料金は増えるものの、増額分は飲料水代と同等になる。初期費用を払う必要もない。トロムソの上杉正章社長は「家計の負担を増やさず、飲料水を購入する手間も省ける」とメリットを指摘する。

同省では使用済みの飲料水ボトルの廃棄が社会問題となりつつある。トロムソの浄水器は「廃プラスチック削減の観点からもニーズは高い」（広島県海外ビジネス課）ため、県も普及に向けた市場調査などで支援する。

ベトナム事業は27年をめどに黒字化を目指す。上杉社長は「中期的に利益を生み出せる仕組みにする」と話し、資本性ローンでの資金調達を計画している。広島発の技術がベトナムの生活や環境に貢献し、ビジネスとしても軌道に乗るか注目される。（田口翔一朗）